

誰かのためにできること～互いを支え合う存在に～

19日に前期前半が終了し、長い夏休みに入りました。今学期は、コロナ禍での制限もほぼなくなり、入学式、運動会、校内実習、現場実習などの学校行事を、予定通り実施することができました。子どもたちは元気いっぱい毎日を過ごし、本校職員もそれぞれの場面で工夫を重ねながら、よりよい学習を求めて精一杯取り組みました。大きな事故もなく、生き生きと学びを重ねることができたことに、少し安堵しているところです。

校内での取組に加えて、校外での交流学习や、外部から多くの方を招いての教育活動も展開することができました。様々な活動の中から今回ご紹介する取組は、「認知症サポーター養成講座（中学部一般学級）」と、「救急救命法講習会（高等部一般学級）」です。



「認知症サポーター養成講座」では、事前学習として車いす体験などに取り組み、荒尾市地域包括支援センターと寸劇ボランティアの方々をお招きして、認知症についての基礎知識を学んだあと、認知症の方への声のかけ方などを考えました。

「救急救命法講習会」では、荒尾消防署の隊員の方々に来ていただき、救命救急の説明や実演を見学したあと、実際にダミー人形を使って胸骨圧迫や自動体外式除細動器（AED）を使った救命措置に挑戦しました。生徒対象の同講習会は初めてでした。

それぞれの学習に真剣に取り組む姿はとてもたくましく、自分自身を守るだけでなく自分たちが誰かを支える存在になろう、自分たちができることで地域を支えていこう、という思いで、自分にできることを考えてくれる姿に、何よりうれしく思いました。そして、私たち自身が日々子どもたちのこのような姿に支えられていると、改めて実感したところです。

さて、今年度は、8月28日（水）から前期再開です。その頃に感染状況がどのようなになっているかわかりませんが、いかなる状況であろうとも、子どもたちにとって一番良い形となるよう、工夫しながら教育活動に邁進したいと思います。引き続き、ご理解とお力添えをお願いいたします。



荒尾支援学校長